

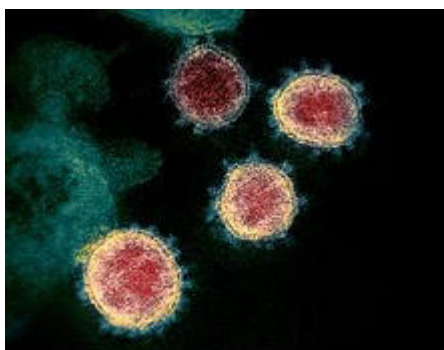
新型コロナ禍（その2）

7月に入り、東京での「新型コロナ禍」が、感染拡大（第二波）。

予想通りだったとはいえ、やはり高校時代の友人（T氏）が、こちらへ戻るに、躊躇してしまった。

ただ、理論的には、普通に生活している人には、あまり心配ないのかと思う。

（東京の人口は、1千万人ですから、たとえ1000人が感染しても、その割合は、0.001%）



新型コロナの電子顕微鏡写真（引用）

「新型コロナ禍」について、自分の考えは、これまでの報道から考えていたことは：

日本では、「医療崩壊」を防ぎながら、日常生活を元に戻し、集団免疫を付けながら「with corona」を目指す方式とっていた。

（ワクチンが開発されるまでか）

しかし、先日、某感染症専門家の衝撃的な記事を見つけた。

「新型コロナ禍」の集団免疫はない

その実際は、中国で一度治った方が複数再感染、とか、スエーデン方式（集団免疫方式）が機能していない。

スエーデンでは、感染者とその死亡率が他国に比して高い、という事実。

中国もスエーデンも、検査の結果、免疫である「抗体」がほとんど出来ていないようだ。

この「新型コロナ禍」の厄介なところは、これまでの病理経験・知識が適応できない。

これまでに、何人もの病理学者が、早い段階で「新型コロナは2ヶ月で終息する」、「暖かくなる4月には収束する」と断言していました。それが今では、「一年はかかる」という見解。

私たちも、「これまでの生活」から、新規生活のリズムを造っていくのが、ストレスを溜めない方法になるのかもしれない。

しかし、ハイキングの後の「居酒屋」が無くなるのは、何んとも寂しい気がするのは、私だけではないだろう。